

1. 単元名 「私たちの海のアマモを守ろう」

2. 単元の目標

- アマモの現状や育つための環境について理解し、学校の人たちに伝わりやすいように発表資料やポスターにまとめることができる。 (知識・技能)
- 実際の浜の写真や自分の経験や見て聞いたことから課題を見だし、アマモが海で育つための方策を考えたり、考えたことや学んだことを発表資料やポスターを通して他の人に分かりやすく伝えたりすることができる。 (思考・判断・表現)
- アマモが海で育つようにしたいという目的意識を持ち、意欲的にアマモについて調べたり、話を聞いたり観察していくことを通して地域のためにできることを考えて積極的に関わろうとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元は、社会科の授業で出てきた「藻場」という言葉をきっかけに児童らにとって身近な海の環境にあるアマモに焦点を当てた教材である。また、実際に環境のことを考えた活動を通して自分たちにも地域のためできることや発信する大切さに気付くことをねらいとしている。

三重県水産研究所の方を招き、三重県の海の現状や身近な二見の海の現状、アマモの特徴や役割について学び、これらと事前に行った調べた知識と結び付けながら聞くことでアマモへの理解や課題への意欲を高めていく中で自分たちの住んでいる町に興味・関心を持ち、愛着を持つことができる。また、アマモを対照実験で育てたり、学んだり感じたりしたことをまとめて考えを共有したり発表したりする活動を通して、まとめるスキルやコミュニケーションスキルの向上も図ることができる。

(2) 児童観

本学級の児童は、社会科の授業の水害の学習で出てきた「藻場」に興味がある様子が見られた。学校の校舎の近くに海があることから、「その海にも藻場があるのか」などの質問が授業中に出てくるほどに関心を感じられる。また、手元のタブレットで「藻場」について調べている児童も見られた。

また、地区によっては夏休みに海岸清掃を行っている児童もおり、海の環境をきれいにしたという意欲を持っている児童もいる。

また、委員会の活動も始まり、皆で学校をより良くしていくための話し合いや活動、全体の前に立って発信することが身近になったこの時に、本課題を取り上げる意義は大きい。

(3) 指導観

本単元の指導にあたっては、まず社会科の授業で出てきた「藻場」について取り上げ、調べさせる。児童らが興味を持っていることから導入としていくことで児童らの学習意欲を高めたい。

次に、「藻場」を調べた時に出てきたアマモについて調べさせ、プリントにまとめさせる。その

後、三重県水産研究所の方をゲストティーチャーとして招き、アマモの知識を深めさせる。ゲストティーチャーのスライドを使った発表や発表資料を見ることで最後に児童らが発表する際のイメージを持たせられるようにする。また、事前に自分たちで調べてわかったことを書いたプリントを手元に置きながら話を聞くことで、アマモについての知識を結び付けて課題として捉えやすいようにする。

そして、アマモの現状をもとにアマモが海で育つためにはどうしたら良いかを話し合わせ、様々な条件下で実際に育ててみたり、育っている環境を見に行ったりする活動を行う。実際に育てて自分の目で成長の様子を見たり、環境の違いを友達の観察結果を聞き合い、比較したりすることでアマモが海で育つための環境についての知識を深めさせるとともに友達に自分の言葉で気付いたことを伝える力を養えるようにする。

さらに今まで学習したことをまとめる活動を通してアマモが海をきれいにしていたり、魚のすみかになっていたり、身近である二見興玉神社では神事として刈り取られ、お清めのお守りとして利用されてきたことに気付かせる。また、これまでの学習で学んだことをまとめて、自分たちには何ができるかを考えさせる。そして全校集会で発表させる。自分の言葉でまとめさせ、発表させることで住んでいる地域にさらに愛着を持てるようにする。また、自分たちにできることを考えさせる活動を通して、これからの活動にも繋げていくようにする。

(4) ESD との関連

・ 本学習で働かせる ESD の視点 (見方・考え方)

相互性…現在の海の環境は将来の海と繋がっており、自分や家族が年老いた時に、環境が改善されないままになっている可能性があるということ。

公平性…自分たちの世代の人々だけが快適に過ごせるだけでなく、未来の人々のことを考えることが大切だということ。

責任性…地域の人々や学校の仲間たちとともに活動を続けていくことが大切であるということ。

・ 本学習で育てたい ESD の資質・能力

コミュニケーション力

アマモが育つ海に自分たちができる活動について、意見交流を通して自分の考えを持つ。

長期的思考力

今の海の環境だけでなく、これからの海の環境について考える力を養う。

協働的問題解決力

クラスの友達と協力し、それぞれの観察結果や考えたことを比較し、意見を交流することで解決していく。

・ 本学習で変容を促す ESD の価値観

世代間の公正

自分たちだけでなく将来の人たちも安心して過ごせるまちづくりが大切。

自然環境・生態系の保全を重視する

自分たちだけが快適な地域ではなく、環境と共に生活していくことができるように努める必要がある。

・達成が期待されるSDGs

1 1 住み続けられるまちづくりを

1 4 海の豊かさを守ろう

4. 単元の評価規準

| ア 知識・技能 | イ 思考・判断・表現 | ウ 主体的に学習に取り組む態度 |
|--|--|--|
| ①アマモが育つ環境や現状について理解している。 ②聞いたり、調べたり観察したりして分かったことを言葉や表を用いてまとめる技能を身に付けている。 | ①身近な海から課題を発見し、これからの海を守るための方策を考えている。 ②調査し自分の言葉でまとめ、表現している。 | ①実際に生育することを通して、自分にできることを模索しようとしている。 ②アマモの実態について学んだことについて学校の人たちに知ってもらうために発信しようとしている。 |

5. 単元の指導計画（全 18 時間）

| 次 | 主な学習活動 | 学習への支援（・） | 評価備考 |
|-------------|--|--|-----------|
| 1 | ○社会科の授業で出てきた藻場について考え、調べる。 ・海にある海藻のある場所だよ。 ・藻場は海藻がたくさん生えていそう。 ・いろいろな海藻がありそう。 ・二見の海にもあるのかな。 ・浅い海で海藻が生育する場所。 ・場所や深さによって育つ種類が異なるよ。 ・いろいろな生物が生活しているよ。 ・水をきれいにする場所にもなっているみたい。 ・アマモって何だろう。 | ・社会科の授業で出てきた「藻場」という言葉から海について考えさせ、身近な海にも視野を広げさせる。 ・藻場の海での役割についても気付かせる。 | イ② |
| 2 ～ 5 | ○アマモについて調べる。調べたことを発表する。 ・二見の浜に落ちていたのを見たことがある。 ・隠れる場所がたくさんあるからたくさんの生き物が生活しているみたいだよ。 ・海のゆりかごと呼ばれているみたいだよ。 ○アマモについて三重県水産研究所の人に話を聞く。 | ・浜に落ちているアマモの写真をみせ、実際に身近にもあるということを実感させる。 ・アマモについての基本的な情報を調べさせる。 ・三重県水産研究所の人にアマモの役割や現状を説明してもらい、ア | ア①② イ① |

| | | | |
|---------------|---|--|-----------------|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・二酸化炭素を吸収して酸素を出しているよ。 ・海の水をきれいにしている。 ・昔より数が減ってしまったみたいだよ。 | <p>マモが減少した海の問題を把握させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・減っている現状をどうにかしたいという気持ちから次に繋げていく。 | |
| 6 ～ 12 | <p>○アマモが海で育つにはどうしたら良いか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・光が必要だと思う。 ・砂かな？小石でも育つのかな。 ・海で育っているけど、海水以外では育たないのかな。 ・水の温度は関係あるのかな。 ・実際に育てて確かめてみよう。 <p>○アマモを実際に育てる。記録をとる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・光がないと育ちにくかったね。 ・海水じゃないと育ちにくいみたい。 <p>○アマモが育つ環境を見に行こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・砂や泥じゃないと抜けちゃうんだ。浜に落ちていたのはこれが原因かも。 ・光が届く深さじゃないとだめなんだね。 ・汚い環境では光が届きにくいから育ちにくいんだ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・理科の学習での知識をもとに育つ環境を予想させる。 ・斑に分かれ、生育環境を班ごとに変えてアマモの成長を比較して観察できるようにする。 ・三重県水産研究所へ行き、アマモの生育環境について実際に目で見て確かめさせる。 ・自分たちが育てた経験をもとに実際の環境と比較しながら観察させる。 | ア①② イ② ウ① |
| 13 ～ 18 | <p>○私たちができることは何か考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポスターを作って学校のみんなにも知ってもらおう。 ・二見興玉神社の藻刈神事を見に行こう。 ・二見の海は昔から続いているから海を保ってきた歴史についても調べてみよう。 ・海をきれいにして海の底まで光が届くように海岸清掃をしよう。 ・二見の海の様子を観察するチームを作ろう。 <p>○発表資料を作る。発表練習をして発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校のみんなが知ってくれるような発表をしよう。 ・海を観察するチームに多くの人が参加してくれるにはどんな工夫をしたらいいかな。 | <ul style="list-style-type: none"> ・今までの学習をもとに自分たちができることはないかと考えさせるようにする。 ・二見興玉神社にアマモを刈り取る神事があることを紹介する。また、二見の海のアマモが減少しているため神事が続けられなくなる可能性があることにも気付くようにする。 ・どうしたら他の人たちに伝えられるかを考えさせ、発表や資料を工夫させる。 | ア② イ①② ウ② |

指導：井阪愛子（平群町立平群中学校）